

ほろやん

335 老人性？



大崎短歌会

兼題『生・自由』

生いきいきと草木も芽吹く里の山
南風吹き渡り麗らかな春
離任式手を振る生徒目に涙
熱き胸には感謝いっぱい
家のあたり椿の開花真つ盛り
庭は落花の赤きじゅうたん
被爆牛殺処分せぬ人在りて
生ある限り福島で飼うと
八にんの曾孫の誕生日しっかりと
覚えはならじ手帳に確かむ
浜辺にて戯れ遊ぶ幼き吾子
朧月夜に思い馳せたり
蒼天に靄もやへる翠花化粧
令和七年春の榮りひとひら

実吉安仁
栞山重子
坂元つるこ
山下海征
穂園芳江
井元かず子
馬場みさ

薩摩郷句

兼題『ラジオ』

生んまればどこなと訊かる九十歳
新義州シンウジュなる国境のまち
この命両親の愛にて生まれけり
生活中にて学び生長

上南紀子
川崎健一

ラジオどん 聞かせつ牛を 太となけつ
(唱) 最高さいごんステーキ なれよちラジオ
遠矢耐多
懐メロで ラジオが婆ばばん 守ゆばしつ
(唱) 美空ひばりで うるうる婆様
上村牛歩
部屋へやん度し ラジオを準備しこつ 一人住め
(唱) 茶の間ちやま寝床ねどこ 不自由せんぼせんごつ
西ノ園ひらり

ラジオどが 仕事しごとつ仕方しかたで 世が解わかつ

(唱) 知しつちよいどんち ラジオんお陰

二見愚楽満

停電で ラジオん良さが 身い沁しみみつ

(唱) 暗闇くらやみで鳴い ラジオが頼たのみ

井上三ちゃん

高校野球 ラジオも準備しこつ 花行楽はなでばい

(唱) 応援おうえんしながい 花見も賑はなん

諸木小春

寝付ねかん夜 ラジオん歌で 朝いあなつ

(唱) 歌が守もゆしつ 朝日が上あがつ

上窪小絵

久しか振ふい ラジオ体操たいそで 骨が泣なつ

(唱) 骨がこつこつ 痛いたてがち泣なちよつ

長重リリー

健し婆ばば ラジオ体操たいそで 夜が明あけつ

(唱) 六時半じゃが 体操たいそをすつど

満石うらら

初めはじめの ラジオ出演 胸が鳴なつ

(唱) しどろもどろで 何なゆ語かたったけ

佐藤ぼつけちゃん

爺ひしの一日 ラジオと連つつ 草くさ筆ふでい

(唱) ニュースどん聞きつ 仕事しごとちや歩はかどつ

北村虎王

一人乗ひとりつ 眠ねびとも消きえた カーラジオ

(唱) 懐メロを聞きつ 気分良よ走はしつ

藤元鬼瓦